

1 文献名
『かわの 百年』
2 学校名
河曲小学校
3 災害名
昭和 19 年（1944 年）東南海地震
4 記述の概要
(1) 雨や風、地震などの様子
二階校舎の揺れがひどく、二階建校舎が菱形状に揺れていた。(P148)
(2) 学校内や地域の被害の状況
生徒のおびえが甚だしかったが、幸い人的災害がなかった。生徒がほぼ逃げ終わったころ、昭忠碑の砲弾型本体部分が、ものすごい地響きとともに落下した。 校舎内では、壁のはく落亀裂 60 坪分、ガラス破損 78 枚、戸棚破損 1 個の被害があった。 村内では、住宅二軒が全半壊し、村社灯ろうも二基破損、竹野では山ノ神の祝膳に作った八升鍋の味噌汁がほとんどこぼれてしまっていた。(P148、284)
(3) 復旧の様子
(4) 体験談
地震は外地にも波及し、フィリピンのリングエン湾内で海軍の夜戦訓練をうけていた最中に三重県出身者だけが呼び出され、「お前たちの故郷はこの度の地震により全面崩壊、よって戻るべき家もなくなつたゆえ、今後は心を無にして一層働け」と告諭された。(P148)
(5) 教訓など
(6) その他

1 文献名
『かわの 百年』
2 学校名
河曲小学校
3 災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
4 記述の概要
（1）雨や風、地震などの様子
ちょうど鈴鹿の西を台風の目が通過し、暴風雨をうけた。（P186）
（2）学校内や地域の被害の状況
学校全域に甚大な被害がでた。 楠の大木の枝は折れ、宿直室は雨ざらしになり、ガラスの破片が飛び散って廊下は歩けず、屋根は半分飛ばされ、柱はむき出しになった。当直にあたっていた先生もなす術がなく、まったく授業のできない状況となった。（P186）
（3）復旧の様子
（4）体験談
（5）教訓など
（6）その他
台風で学校が運営不能になったのは、明治 29 年秋に二週間休校になって以来のことだった。（P186）